

川岡誠翔さん

(川角地区在住)

現在、広島県立大学地域創生学部の3年生に在籍しています。地域創生学部では、地域社会の持続的な発展のための実践行動の在り方などを探求します。

私は、平成30年7月豪雨の際に避難所への避難を経験しました。避難経路や被害などの情報が得られず、大きな不安を覚えました。その経験から、防災に関する地域貢献策を色々と思い描きました。最適な避難経路が検索できたり、クイズ形式で楽しみながら知らず知らずのうちに防災知識が身についたりするような防災アプリの開発もその一つです。今では、『ひろしま避難誘導アプリ避難所へGO!』など公的な防災アプリも充実してきているようで、安心感はずいぶんと高まっています。



高校3年生の探求学習では東防災交流センターを訪ねて防災について学びました。また、地域振興に関する町のワークショップへの参加によって地域について知らないことが沢山あることに気付き、まちづくりの企画をすることの楽しさを体験しました。こうした経験などがきっかけで、大学では地域創生を専攻しようと考えました。

新しくできる施設では、モノづくりや表現活動をする人たちへの支援が行われるということで、とても楽しみにしています。表現活動には様々な分野やバリエーションがありますが、アニメのキャラクターなどに扮(ふん)するコスプレも表現活動に含まれ、サブカルチャーとしての存在感を増しています。今、世界中の人々が日本のコスプレ文化に興味や関心を示しており、コスプレイヤーやコスプレファンの人口も多く、海外からコスプレイベントへの参加やコスプレグッズを求めて沢山の人が訪れるようになっています。独特の世界観がある表現活動ですが、コスプレは観光振興や地域活性化などにも貢献しているのです。

こうした表現行為であるコスプレを自然豊かな公園のなかで行えば、熊野町に新たな価値が創造されるのではないのでしょうか。若者を中心に熊野町の知名度も高まります。

コスプレに必要な衣装やグッズを手づくりする人も多くいます。単に扮するだけではなく、新しくできる施設がモノづくりの場でもあるのですから、表現活動の一環として衣装やコスプレグッズなどの制作もイベントの

要素に含めることにしてはどうでしょう。アイデア次第で、他に例のないイベントを企画することも考えられるのではないのでしょうか。

アニメや漫画、コスプレなどは、我が国を代表するサブカルチャーであり、世界中の多くのファンに愛されている文化芸術です。私はこうしたことに関心がありますので、新しくできる施設や公園でのサブカルチャーに関するイベント企画に携わってみたいと思っています。

また、子どもや若者の興味関心という面でいえば、カードゲームを家族で楽しめる場づくりとか、フィギアの塗装やスマホケースに独自のグラフィックデザインを施すといったデジタル技術を用いた手作業、生活に役立つアプリケーションを作成する講座といったことも考えられると思います。

屋外空間は傾斜のある丘状の公園になるようですが、例えばその傾斜を利用して、とても長いそうめん流しを行うといったイベント企画はどうでしょう。多くの場所で孟宗竹が里山を侵食していますが、そうした素材を活用し、そうめん流しの水路はもちろん、椀や箸も参加者が自ら作って、共働して会場づくりをしてゆけば、コミュニケーションを高めることに役立つはずです。

このような様々なイベントを組んで集客をすることも大切だとは思いますが、「とにかく行ってみる。何かやっているぞ。自分も何かやってみるか。」そうした“ゆるい”感じで足が向かうような、敷居の低い、開かれた施設づくりがなされることを期待していますし、私自身も施設運営や企画づくりに協力したいと思います。

この内容は、令和5年1月14日に開催した『(仮称) 筆の里創造の丘公苑「体験交流施設」ワークショップ』に参加いただいた方へのインタビュー内容を記録したものです。(一部要約をしました。)

日時 令和6年7月3日午後4時から

場所 熊野西防災交流センター